

## 平成30年度第3回いじめ防止対策協議会における委員御発言（抜粋）

### 【個別事案分析関係】

#### （分析項目について）

- 結局、今やろうとしている作業は分析ではなくて、報告書のサマリーを作るということに留まっているように思う。サマリーを作った上で、どのような問題があるのかを分析する必要がある。
- 「死にたい」と子供達がい出したときからの学校や教育委員会の対応が読み取れるような資料にさせていただくと参考になる。
- 保護者とのコミュニケーションの在り方や、カウンセラーなど教員以外で関わりのある職種がいたのかなども入れていただくと役立つと思う。
- 重大事態は1号の生命・心身・財産重大事態と、2号の不登校重大事態の2種類がある。その上で、自死事案か非自死事案、小・中・高、学年などの変数のクロス表を作って抽出基準を明確に示すべき。また、学ぶものがある典型例を選ぶ方が良い。
- 分析する事例については、いじめられて自殺に至るような典型的なものも必要だが、個別の要素が異なるような様々な事例を検討していくことも必要ではないか。
- サマリーで終わるのではなく、いじめの防止、早期発見、対応、重大事態といった各段階で何が問題だったか分析項目を決めて行うとよいと思う。例えば、いじめ防止の観点からは、学校いじめ基本方針が国の基本方針に沿って策定されたか、校内研修は実施されたか、児童生徒や保護者に対して学校いじめ基本方針を説明したかなど。教育委員会や学校が気を付けなくてはいけないポイントをサマリーの最後でまとめるとよいのではないか。
- 各段階での問題点をまとめるのが良いというのはそのとおりだが、調査報告書の内容次第では限界もあるので、実際の報告書と突き合わせながら検討していただきたいと思う。
- 地域特性、いじめにあった子供の特性、家庭環境によってもおそらく対応の仕方が変わってくる。また、学校の規模、教職員の勤務年数、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置状況、保健室利用の仕方などの項目もあると、特性ごとの対応の仕方や発生リスクを把握できるのではないか。
- 分析については、教育委員会等から提供された報告書を基に抽出して行っていくことになり、また、データによっては学校名や個人名が特定される可能性もあるので、そうした制約もあることを踏まえて検討する必要がある。
- 事案のうち何を取り上げるかによって、再発防止の視点は大きく生きてくる。学校として、どの時点で、何をどうすべきかという点が分かるようにまとめていただけるとありがたい。

- まずはサマリーと称されている個別事案分析を第1段階としてできる限り早く作成し、その次に、第2段階としてのいわゆる「再分析」について分析体制の在り方を含めて検討してもらうとよい。

#### (分析体制について)

- 事例については、法律家からの読み方もあれば、教育関係からの読み方もある。多様な読み方ができる体制を御検討いただいた方がよい。

#### (活用方法について)

- 少なくとも当面はサマリーを発出するとして、次に、それを題材として精神科医や法律家の意見などを基に専門的に分析していかないと再発防止に役立ってるのは難しいのではないか。
- (資料2のように)生徒が出すサインをきちんとキャッチできていない事例はたくさん報告されているのではないか。それを集めた上で、どうしてサインを適切に受け取ることができなかつたのか、教員の力量の向上策、組織体制の在り方、必要な報告の書式などはどうすればよいのかなど、多方面から分析した上で、最終的に教訓化することは可能なのではないか。個別事案分析と事案情報整理で示された情報を合わせるような形になって、報告書が有効に活用できるようになると考える。
- (分析結果を)各学校に配るときには、活用方法も示していただきたい。また、分析結果が示されたときに、学校が対応できることとできないことが現実的にある。今の学校が対応できるような体制整備の提案もあわせて示すことで、実質的な対応が可能になるように思う。

#### 【事案情報整理関係】

- 報告書が被害者に対してどの程度説明されたのかが気になる。
- 事案情報整理を見てみて、どこに問題点があるのか等を分析していくことが必要。第三者委員会が適切に動いているか、被害者の方への対応が適切かどうかなどの観点から各地の報告書を整理して、分析結果を基に、ガイドラインを更に改定していく作業が必要なのではないか。
- 事案情報整理の中に、基本調査の有無とその内容を盛り込んで欲しい。
- 加古川市や大津市のように、とりまとめられた調査報告書を生かす形での制度化(再発防止策を検証する組織の立ち上げ等)がされたかどうかを盛り込んで欲しい。立派な報告書が出てそのままというケースが多分かなりあると思う。
- 再調査が行われたかどうかを盛り込んで欲しい。調査結果が当事者に受け入れられたか否か、信頼関係が作れたか否かの一つの指標になる。
- (重大事態の調査に当たり) どういう資料を使ったのかを入れていただきたい。資料がきちんと学校から引き継がれたのかどうか、また、聞き取りを行った生徒の人数、教員の属性(管理職か一般の教職員か)及び人数など、そのあたりも把握できれば入れていただきたい。